

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p>1 フレイル予防について （20分）</p> <p>本市の人口は2015年で70,089人ですが、2015年4月1日現在の住民基本台帳人口を基にした人口推計では、2025年には68,950人と7万人を割り、その後も減少し続けることが予想されます。また、高齢化率も、2015年の24.1%から、2025年には30.7%に達すると見込まれており、全国的に見ても急速に高齢化が進行していくものと考えられます。</p> <p>本市における65歳以上の高齢者に占める要介護等認定者の割合は、ここ数年11%前後で推移していますが、今後、高齢化の進展とともに認定者数および認定者の割合の増加が見込まれます。</p> <p>フレイルは要介護の前段階であり、加齢とともに心身の活力が低下し、複数の慢性疾患の併存などの影響もあり、生活機能が障害され、心身の脆弱性が出現した状態であります。しかし一方で適切な介入、支援により生活機能の維持可能な状態像とされています。</p> <p>65歳以上の85%の方がフレイルの前段階の状態にあるといわれ、早めに気付いて対策をとれば、元の状態に戻ることもできます。</p> <p>生涯にわたって元気に暮らしていくためにも、これまで以上に健康づくりを推進していく必要があります。</p> <p>このような観点から、以下の質問を致します。</p> <p>(1) 介護予防との違いは。</p> <p>(2) 本市のフレイル予防の取組について</p> <p>(3) フレイル予防の担い手を育成するためにしていることは。</p> <p>(4) 担い手に対する援助は。</p>	市長
<p>2 液体ミルク等の導入について （20分）</p> <p>2011年に発生した東日本大震災は、未曾有の災害として東北地方を中心に人々の暮らしに甚大な被害をもたらしました。また、昨年の西日本豪雨（平成30年7月豪雨）や北海道胆振東部地震など、全国各地で地震や集中豪雨が多発しており、災害に対応する体制の充実が求められています。</p> <p>2016年に起きた熊本地震の際、フィンランドから救援物資と</p>	市長

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p>して液体ミルクが支給されました。その際に液体ミルクの必要性が認識されるようになりました。</p> <p>乳児用液体ミルクは、粉ミルクのようにお湯で溶かす必要がなく、開封して哺乳瓶に移し替えれば、すぐに赤ちゃんに与えることができます。母乳に近い栄養素が含まれており、常温で約半年間の保存が可能です。海外では、欧米を中心に普及が進んでいます。</p> <p>液体ミルクで期待されているのが、災害時の活用です。災害時はストレスや疲れで母乳が出にくくなります。また、哺乳瓶を洗う衛生的な環境が避難先にはない場合があります。しかし、液体ミルクであれば、お湯を沸かしたり、清潔な水がなくても簡単に授乳でき、災害時に赤ちゃんの命をつなぐ貴重な栄養源になります。</p> <p>国内では昨年、製造が解禁され、今年3月から販売が開始されました。東京都文京区や大阪府箕面市では、導入する方針を発表しました。</p> <p>災害から大切な赤ちゃんの命を守るために液体ミルクの導入は必要なものと思われまます。</p> <p>また、災害時の避難所生活の際に、床に直接寝ることは不衛生であり、プライバシーのない空間に長くいることは高ストレス状態を強いられることとなります。</p> <p>そんな環境を少しでも和らげるために、段ボールベットは有効なものと思われまます。</p> <p>このような観点から、以下の質問を致します。</p> <p>(1) 災害時の市としての取組について</p> <p>(2) 地域防災計画の中で女性の目線に配慮していることは。</p> <p>(3) 液体ミルクの導入について</p> <p>(4) 段ボールベットの導入について</p>	市長